

福生市・羽村市
多文化共生実態調査
報告書(概要版)

令和3年1月

ふっさ・はむら多文化共生事業協議会

【概要版について】

本概要版は、地域で共に暮らす日本人・外国人の現状、様々な国籍の人々が同じ地域で生活することで生じる課題を把握し、これからの多文化共生の施策の推進に向けた基礎資料を得ることを目的とした「福生市・羽村市多文化共生実態調査報告書」を要約したものである。

【調査の概要】

- (1) 調査地域……福生市・羽村市全域
- (2) 調査対象……20歳以上の日本人住民および外国人住民
- (3) 標本数……日本人住民2,000人（福生市1,000人、羽村市1,000人）、
外国人住民1,500人（福生市1,000人、羽村市500人）
- (4) 抽出方法……福生市・羽村市住民基本台帳に基づく無作為抽出法
- (5) 調査方法……郵送配布・郵送回収
- (6) 調査期間……令和2年10月8日（木）～10月31日（土）
- (7) 有効回収率（回収数）…日本人住民45.1%（901件）、外国人住民22.1%（332件）

【調査項目】

日本人住民用

- 1 ご自身について（調査回答者の属性）
- 2 暮らしの実感
- 3 日常生活
- 4 多文化共生のまちづくり

外国人住民用

- 1 ご自身について（調査回答者の属性）
- 2 日本での暮らし
- 3 日常生活でのトラブル
- 4 ことば
- 5 多言語化の対応について
- 6 新型コロナウイルス感染症や災害時・緊急時の対応
- 7 必要な情報・サービスについて
- 8 多文化共生のまちづくり

【概要版を見る際の注意事項】

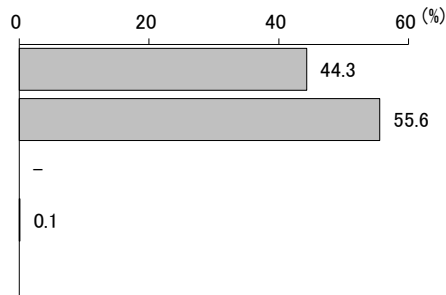
- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100.0%にならない場合がある。
- (2) n（Number of Casesの略）は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答者数に相当するかを示している。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。

日本人住民用調査結果

1 ご自身について（調査回答者の属性）

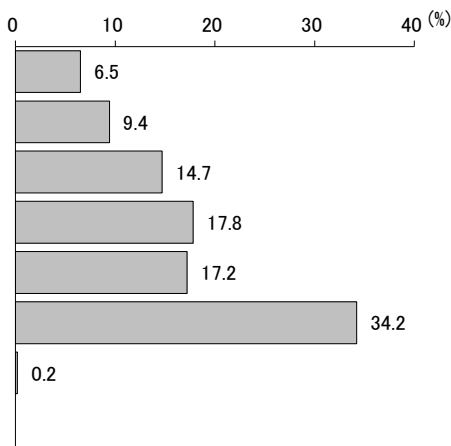
（1）性別

	基数	構成比
男性	399	44.3%
女性	501	55.6%
その他	-	-
無回答	1	0.1%
全体	901	100.0%



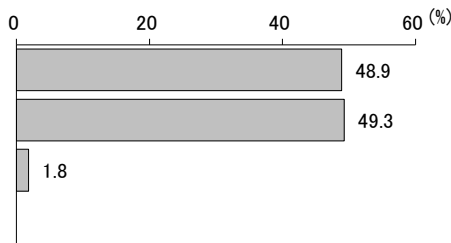
（2）年齢

	基数	構成比
20～29歳	59	6.5%
30～39歳	85	9.4%
40～49歳	132	14.7%
50～59歳	160	17.8%
60～69歳	155	17.2%
70歳以上	308	34.2%
無回答	2	0.2%
全体	901	100.0%



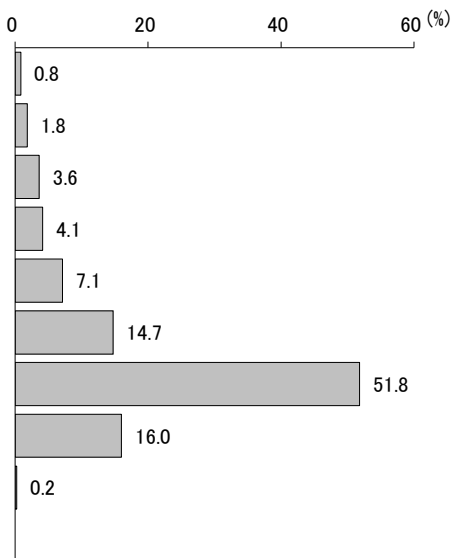
（3）住んでいる市

	基数	構成比
福生市	441	48.9%
羽村市	444	49.3%
無回答	16	1.8%
全体	901	100.0%



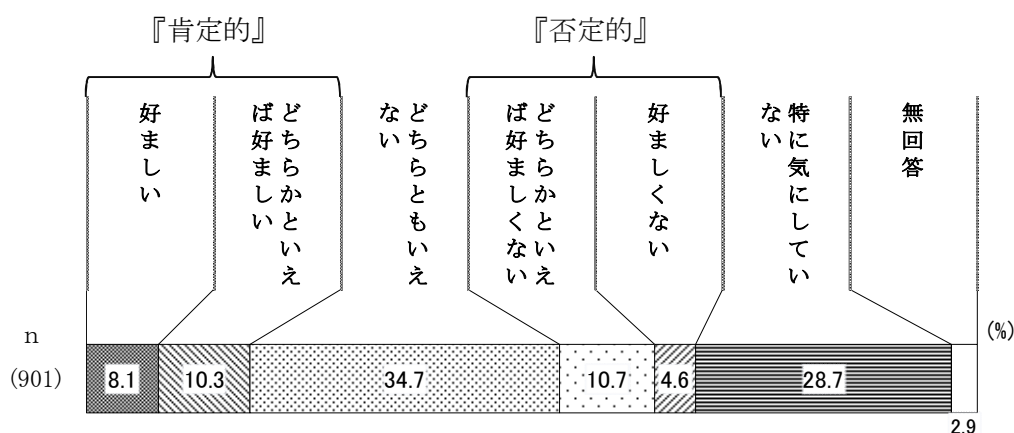
（4）居住年数

	基数	構成比
6ヵ月未満	7	0.8%
6ヵ月以上～1年未満	16	1.8%
1年以上～3年未満	32	3.6%
3年以上～5年未満	37	4.1%
5年以上～10年未満	64	7.1%
10年以上～20年未満	132	14.7%
20年以上～50年未満	467	51.8%
50年以上	144	16.0%
無回答	2	0.2%
全体	901	100.0%



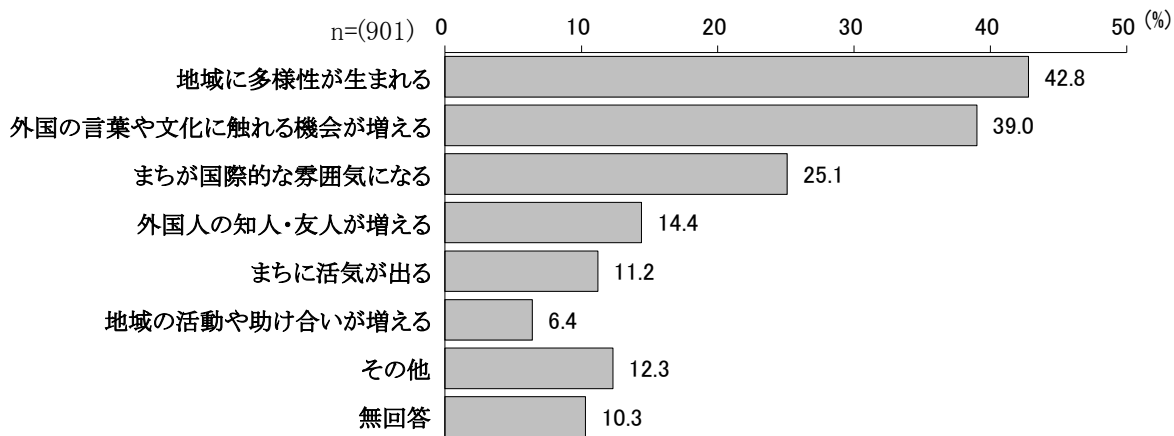
2 暮らしの実感

(1) 近所に外国人が住むことについての考え



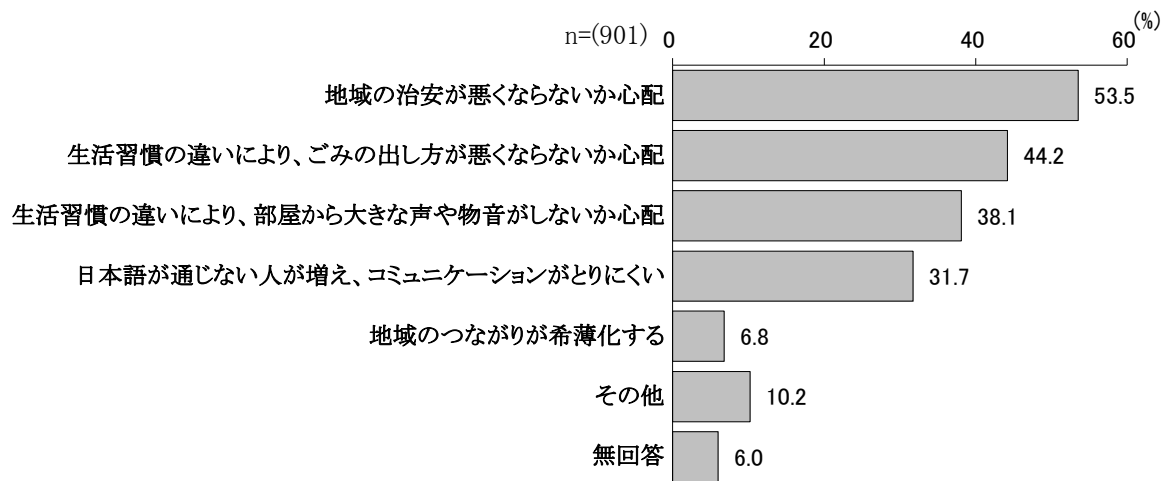
近所に外国人が住むことについての考えでは、「どちらともいえない」が34.7%で最も多く、次いで「特に気にしていない」(28.7%)となっていた。一方、「好ましい」(8.1%)と「どちらかといえば好ましい」(10.3%)を合わせた『肯定的』な回答は18.4%、「どちらかといえば好ましくない」(10.7%)と「好ましくない」(4.6%)を合わせた『否定的』な回答は15.3%となっている。

(2) 近所に外国人が住むことの良さ



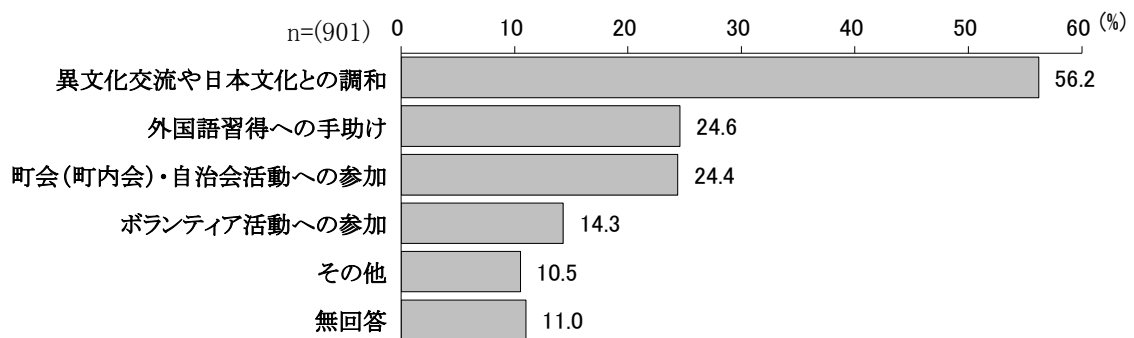
近所に外国人が住むことの良さでは、「地域に多様性が生まれる」が42.8%で最も多く、以下、「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」(39.0%)、「まちが国際的な雰囲気になる」(25.1%)、「外国人の知人・友人が増える」(14.4%)となっている。

(3) 外国人が多くいることで心配なこと



外国人が多くいることで心配なことでは、「地域の治安が悪くならないか心配」が53.5%で最も多く、以下、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」(44.2%)、「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」(38.1%)、「日本語が通じない人が増え、コミュニケーションがとりにくい」(31.7%)となっている。

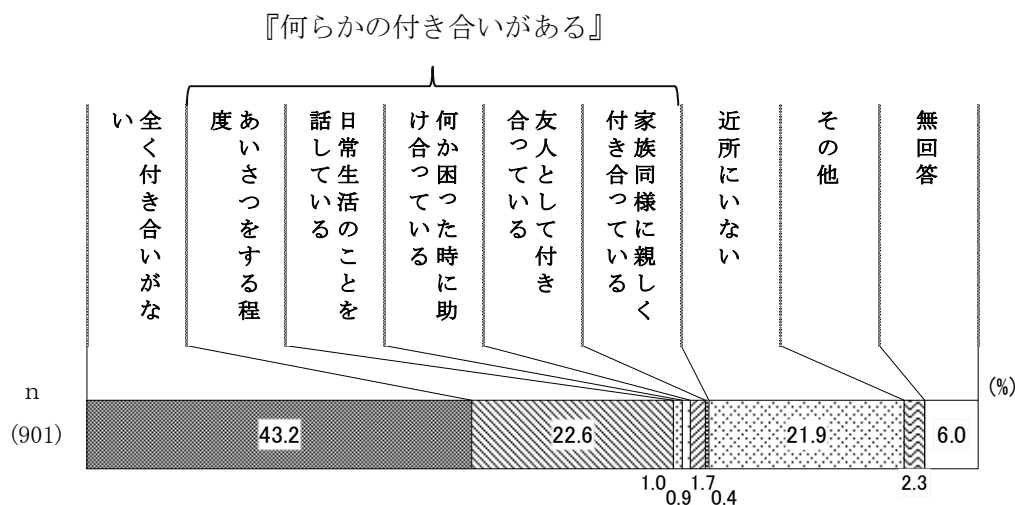
(4) 外国人に期待すること



外国人に期待することでは、「異文化交流や日本文化との調和」が56.2%で最も多く、以下、「外国語習得への手助け」(24.6%)、「町会(町内会)・自治会活動への参加」(24.4%)、「ボランティア活動への参加」(14.3%)となっている。

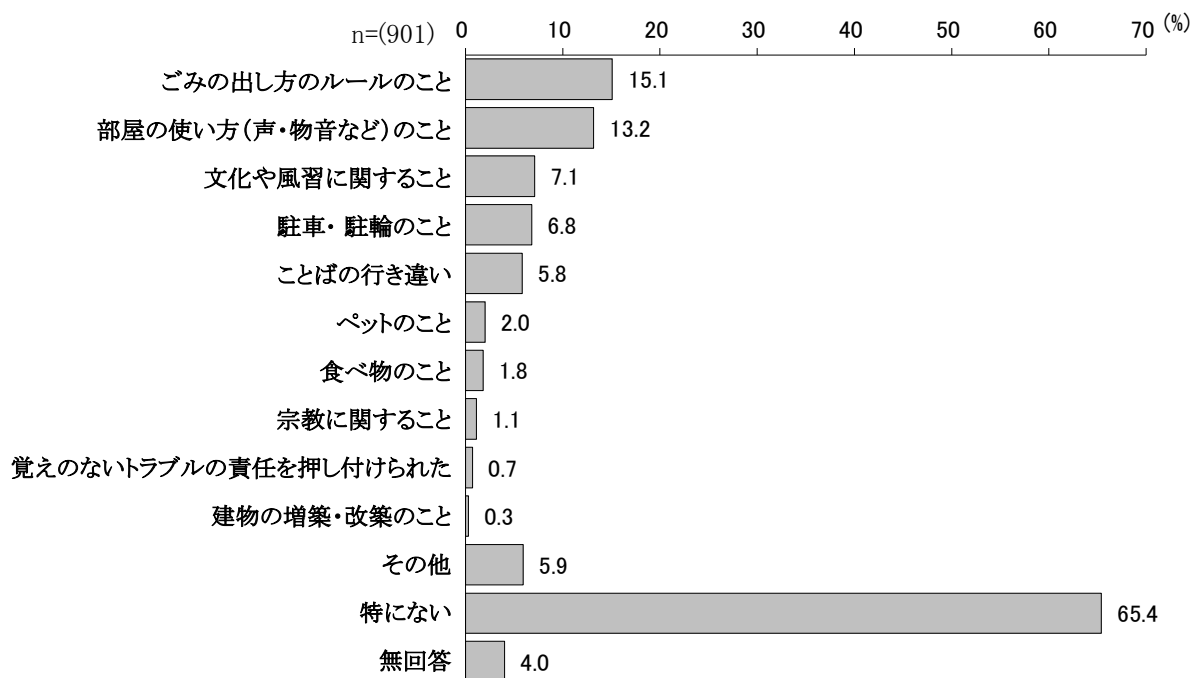
3 日常生活

(1) 外国人との付き合いの程度



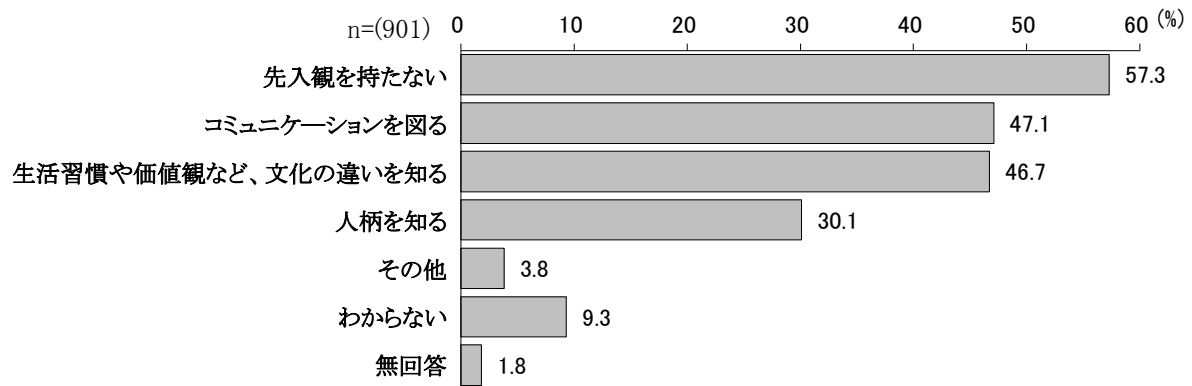
外国人との付き合いの程度（現在）では、「全く付き合いがない」が43.2%で最も多かった。一方、「挨拶をする程度」（22.6%）、「日常生活のことを話している」（1.0%）、「何か困った時に助け合っている」（0.9%）、「友人としてつき合っている」（1.7%）、「家族同様に親しくつき合っている」（0.4%）を合わせた『何らかの付き合いがある』は26.6%となっている。

(2) 外国人とのトラブルの経験



外国人とのトラブルの経験では、「特にない」が65.4%で最も多く、以下、具体的な選択肢の中では、「ごみの出し方のルールのこと」（15.1%）が最も高く、以下、「部屋の使い方（声・物音など）のこと」（13.2%）、「文化や風習に関すること」（7.1%）、「駐車・駐輪のこと」（6.8%）となっている。

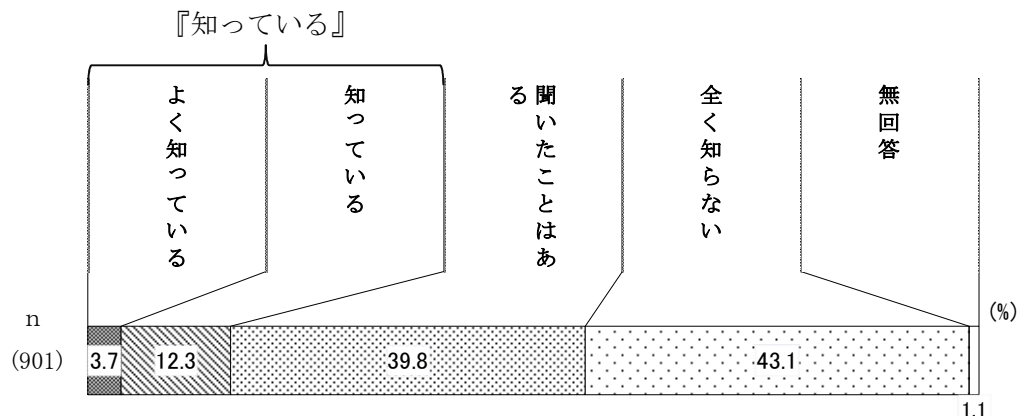
(3) 外国人と生活していくために大切だと思うこと



外国人と生活していくために大切だと思うことでは、「先入観を持たない」が57.3%で最も多く、以下、「コミュニケーションを図る」(47.1%)、「生活習慣や価値観など、文化の違いを知る」(46.7%)、「人柄を知る」(30.1%)となっている。

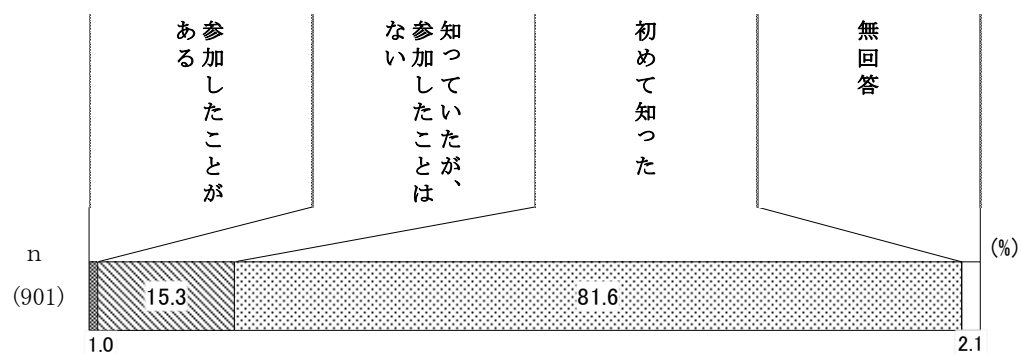
4 多文化共生のまちづくり

(1) 「多文化共生社会」という言葉の認知度



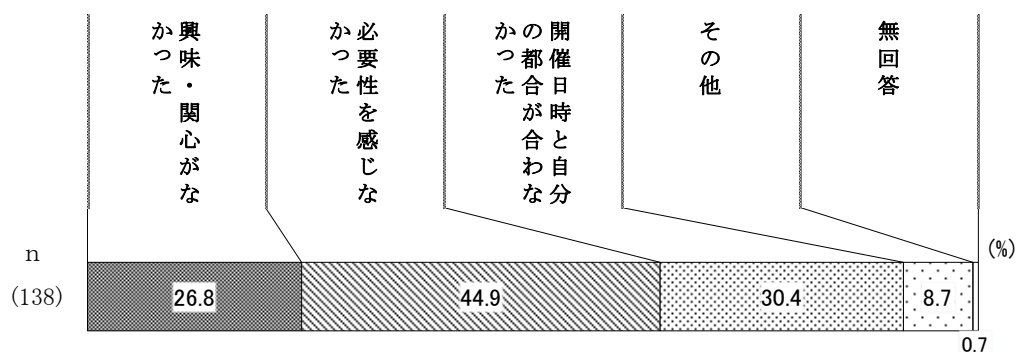
「多文化共生社会」という言葉の認知度では、「全く知らない」が43.1%で最も多く、次いで、「聞いたことはある」(39.8%)となっている、一方「知っている」(12.3%)と「よく知っている」(3.7%)を合わせた『知っている』は16.0%であった。

(2) 多文化共生を理解促進するための事業の認知度



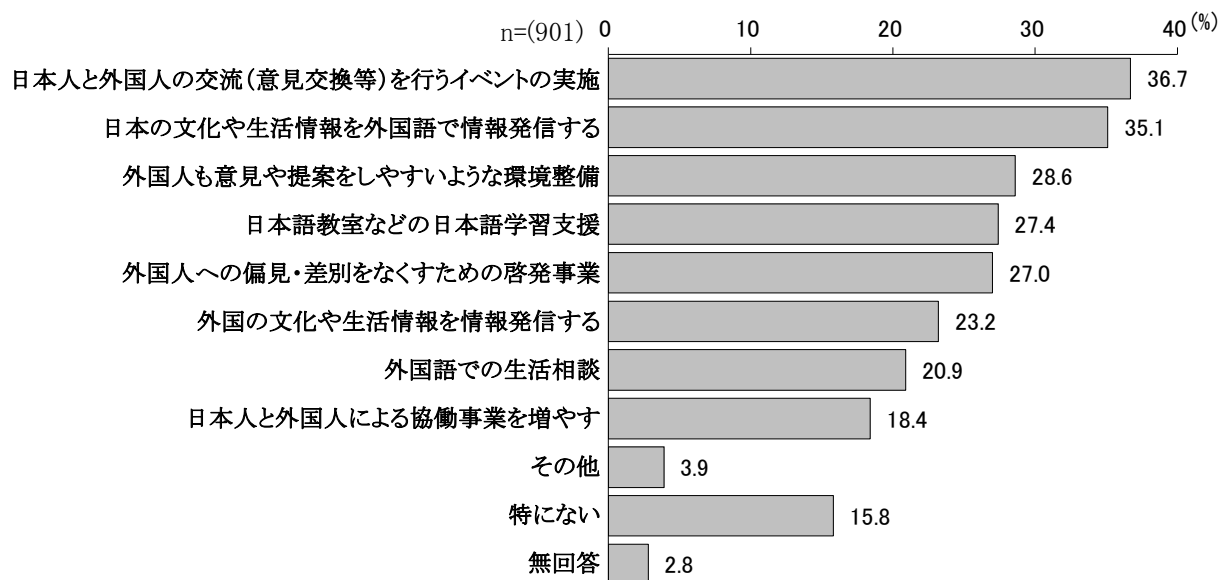
多文化共生を理解促進するための事業の認知度では、「初めて知った」が81.6%で最も多く、以下、「知っているが、参加したことはない」(15.3%)、「参加したことがある」(1.0%)となっている。

(3) 多文化共生を理解促進するための事業に参加しなかった理由



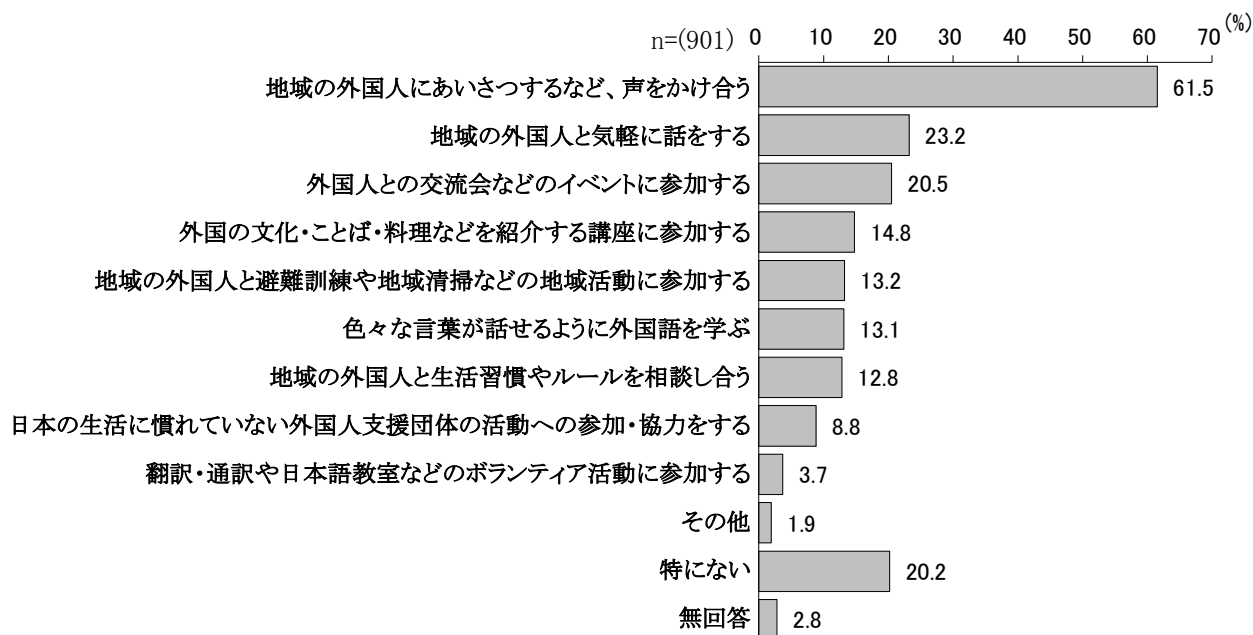
参加しなかった理由では、「必要性を感じなかった」が44.9%で最も多く、以下、「開催日時と自分の都合が合わなかった」(30.4%)、「興味・関心がなかった」(26.8%)、「その他」(8.7%)となっている。

(4) 市の取組みとして力を入れるべきだと思うこと



市の取組みとして力を入れるべきだと思うことでは、「日本人と外国人の交流（意見交換等）を行うイベントの実施」が36.7%で最も多く、以下、「日本の文化や生活情報を外国語で情報発信する」(35.1%)、「外国人も意見や提案をしやすいような環境整備」(28.6%)、「日本語教室などの日本語学習支援」(27.4%)となっている。

(5) 「多文化共生のまちづくり」のためにできると思うこと



「多文化共生のまちづくり」のためにできると思うことでは、「地域の外国人にあいさつするなど、声をかけ合う」が61.5%で最も多く、以下、「地域の外国人と気軽に話をする」(23.2%)、「外国人との交流会などのイベントに参加する」(20.5%)となっている。

(6) 自由意見

多文化共生について意見や要望を自由に記述していただいたところ、328票の様々な意見が寄せられた。1票に複数の意見が記入されている場合があるため、意見数の合計は365件となっている。下記表は、それらの意見を分野ごとに分類した件数を示したものである。

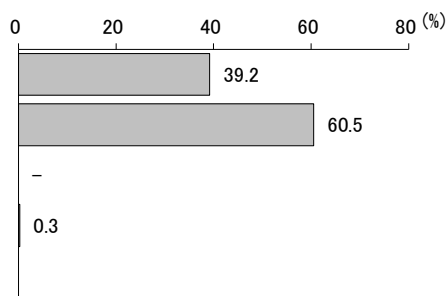
分類	件数
交流の場・機会の拡充について	109
日常生活のマナー・ルールについて	69
教育・言語学習について	39
行政・市の対応について	32
情報提供・相談体制について	28
受け入れる側の意識・差別と偏見の解消について	21
防犯・防災対策について	6
本調査のあり方について	5
その他	56
合計	365

外国人住民用調査結果

1 ご自身について（調査回答者の属性）

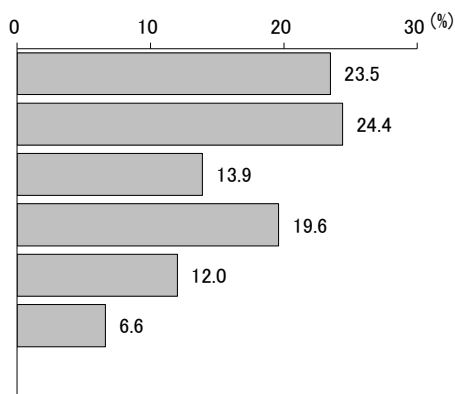
（1）性別

	基数	構成比
男性	130	39.2%
女性	201	60.5%
その他	-	-
無回答	1	0.3%
全体	332	100.0%



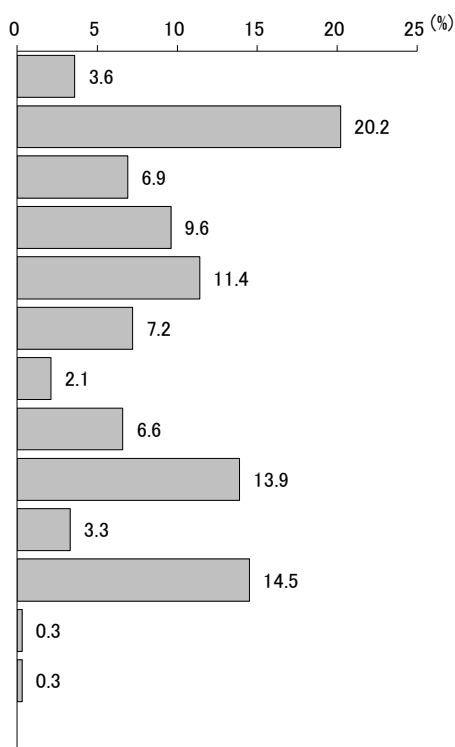
（2）年齢

	基数	構成比
20～29歳	78	23.5%
30～39歳	81	24.4%
40～49歳	46	13.9%
50～59歳	65	19.6%
60～69歳	40	12.0%
70歳以上	22	6.6%
全体	332	100.0%



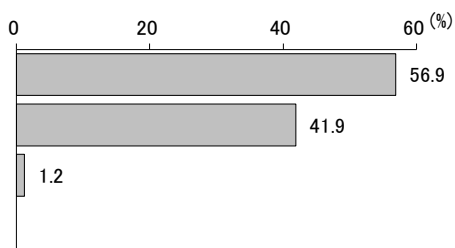
（3）国籍

	基数	構成比
ブラジル	12	3.6%
中国	67	20.2%
ネパール	23	6.9%
ペルー	32	9.6%
フィリピン	38	11.4%
韓国・朝鮮	24	7.2%
タイ	7	2.1%
アメリカ	22	6.6%
ベトナム	46	13.9%
台湾	11	3.3%
その他	48	14.5%
無国籍	1	0.3%
無回答	1	0.3%
全体	332	100.0%



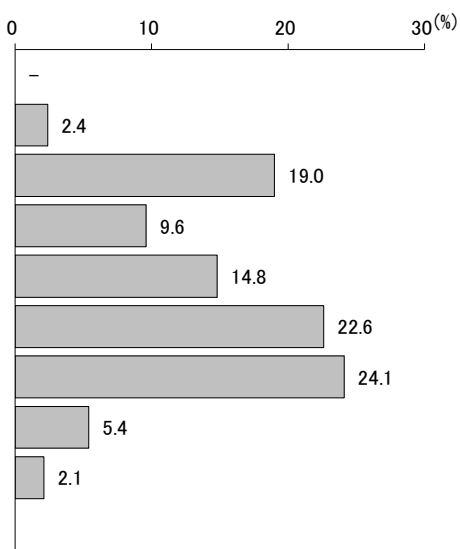
(4) 住んでいる市

	基数	構成比
福生市	189	56.9%
羽村市	139	41.9%
無回答	4	1.2%
全体	332	100.0%



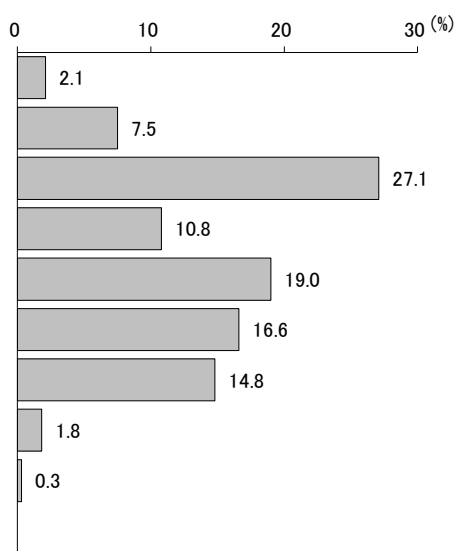
(5) 日本での居住期間

	基数	構成比
6ヵ月未満	-	-
6ヵ月以上～1年未満	8	2.4%
1年以上～3年未満	63	19.0%
3年以上～5年未満	32	9.6%
5年以上～10年未満	49	14.8%
10年以上～20年未満	75	22.6%
20年以上～50年未満	80	24.1%
50年以上	18	5.4%
無回答	7	2.1%
全体	332	100.0%



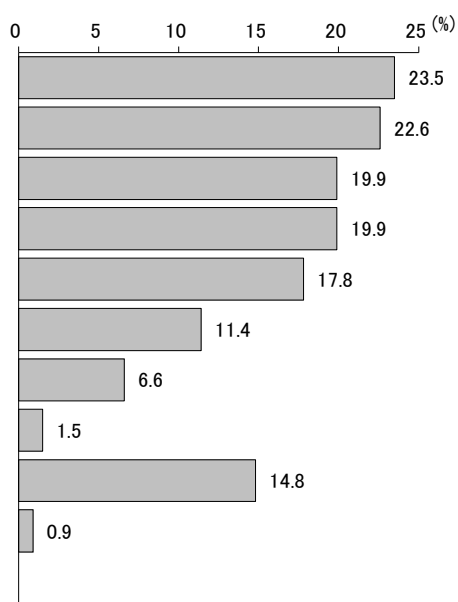
(6) 現在の市での居住期間

	基数	構成比
6ヵ月未満	7	2.1%
6ヵ月以上～1年未満	25	7.5%
1年以上～3年未満	90	27.1%
3年以上～5年未満	36	10.8%
5年以上～10年未満	63	19.0%
10年以上～20年未満	55	16.6%
20年以上～50年未満	49	14.8%
50年以上	6	1.8%
無回答	1	0.3%
全体	332	100.0%



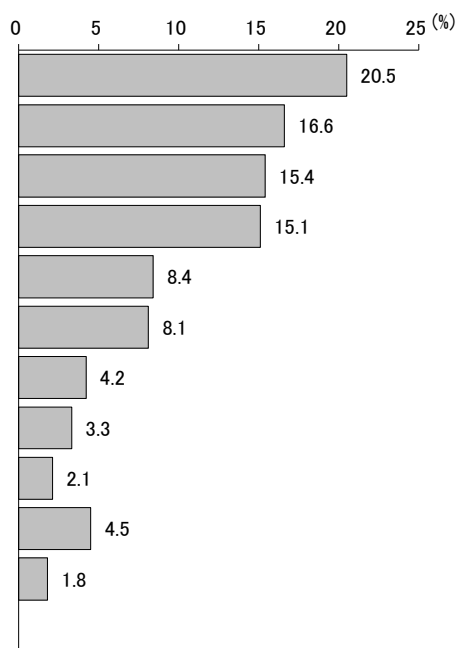
(7) 来日目的

	基数	構成比
日本の国にあこがれて	78	23.5%
勉強のため	75	22.6%
お金を得るため	66	19.9%
結婚のため	66	19.9%
自分または家族の転勤のため	59	17.8%
職業技術を身につけるため	38	11.4%
日本で生まれた	22	6.6%
政治的自由のため	5	1.5%
その他	49	14.8%
無回答	3	0.9%
全体	332	100.0%



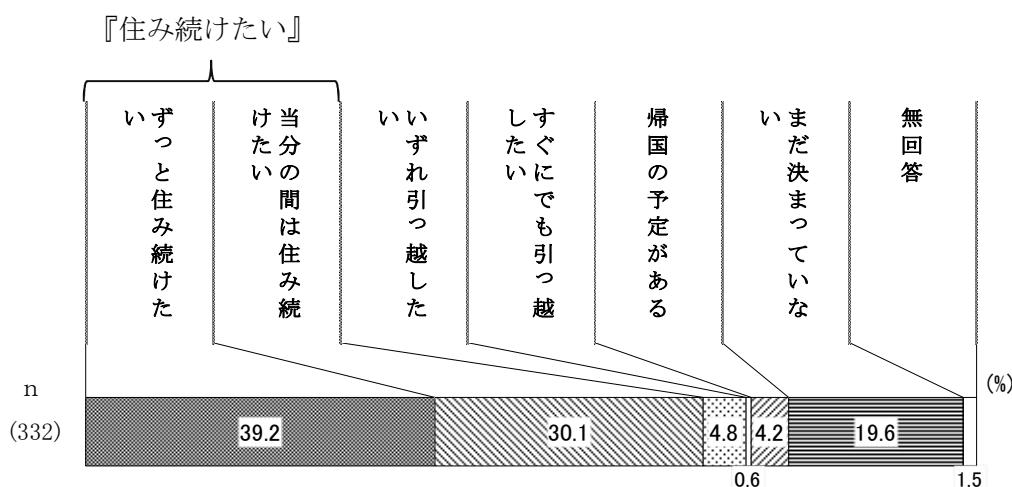
(8) 仕事

	基数	構成比
会社員	68	20.5%
パート・アルバイト	55	16.6%
契約社員・派遣社員	51	15.4%
専業主婦(夫)	50	15.1%
学生	28	8.4%
無職(定年後を含む)	27	8.1%
休職中(失業中)	14	4.2%
研修生・技能実習生	11	3.3%
会社経営	7	2.1%
その他	15	4.5%
無回答	6	1.8%
全体	332	100.0%



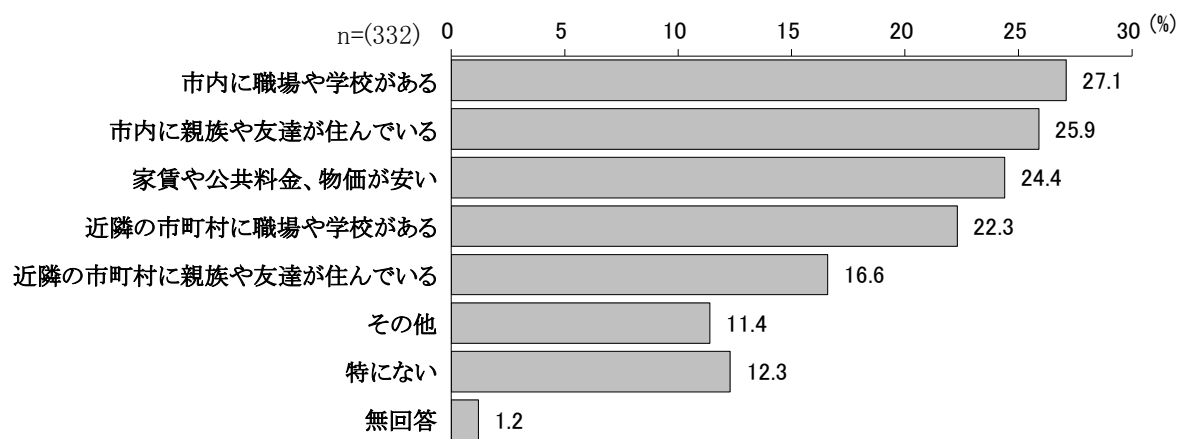
2 日本での暮らし

(1) 現在の市に住み続けたい期間



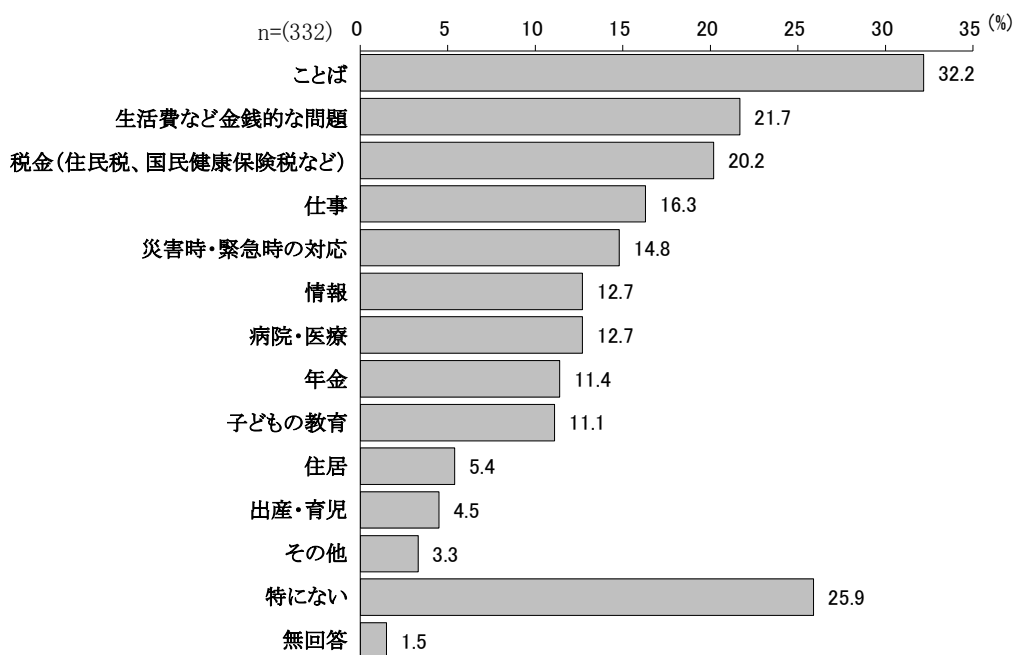
現在の市に住み続けたい期間では、「ずっと住み続けたい」(39.2%)と「当分の間は住み続けたい」(30.1%)を合わせた『住み続けたい』が69.3%となっている。次いで、「まだ決まっていない」(19.6%)、「いずれ引越したい」(4.8%)となっている。

(2) 現在の市に住んでいて良かったこと



今の市に住んでいて良かったことでは、「市内に職場や学校がある」が27.1%で最も多く、以下、「市内に親族や友達が住んでいる」(25.9%)、「家賃や公共料金、物価が安い」(24.4%)、「近隣の市町村に職場や学校がある」(22.3%)となっている。

(3) 日本の生活での困り事、心配事



日本の生活での困り事、心配事では、「ことば」が32.2%で最も多く、以下、「生活費など金銭的な問題」(21.7%)、「税金(住民税、国民健康保険税など)」(20.2%)、「仕事」(16.3%)となっている。一方、「特になし」は25.9%だった。

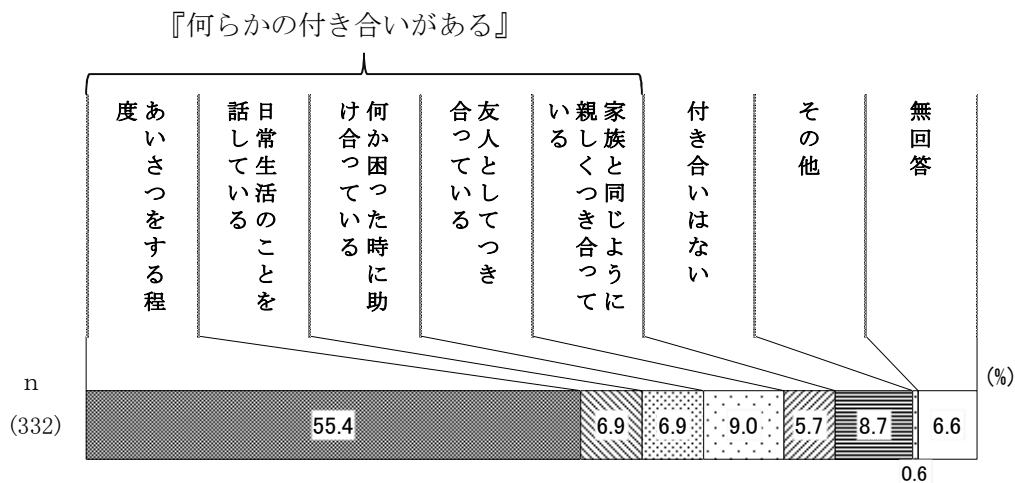
(4) 日本の生活での困り事、心配事の内容

具体的な困り事、心配事として挙げられた内容は、以下のとおりである。

具体的な困り事、心配事の内容 【主な回答の要旨】

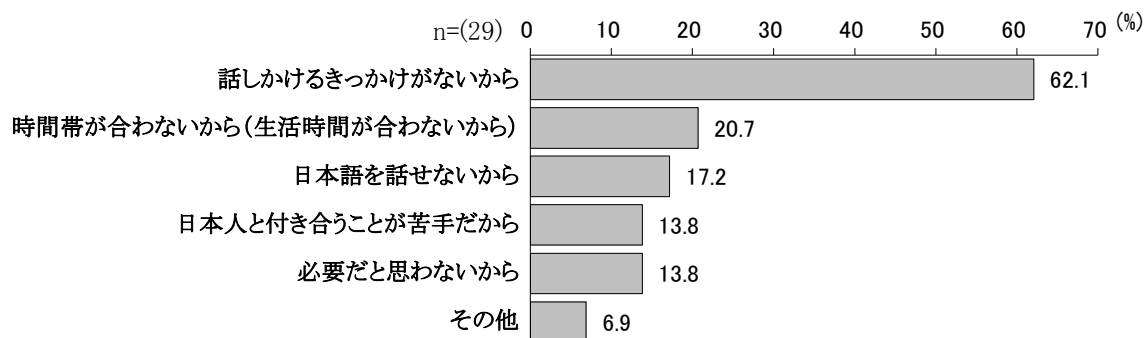
<p>1. ことば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語は難しい。 ・言葉が不自由だと仕事に限られる。 ・周囲とコミュニケーションが取れない。 ・日本語を練習できる機会がない。 	<p>7. 子どもの教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが先生やクラスメイトとのコミュニケーションが取れない。 ・子どもが学校でいじめられないか心配だ。 ・保護者として先生とコミュニケーションが取れない。
<p>2. 情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人のための情報源が限られている。 ・お金のことに関する情報提供の場がほしい。 	<p>8. 仕事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用が不安定だ。 ・雇用言葉の壁がある。 ・資格があっても正当に評価されない。
<p>3. 住居</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家賃が高い。 ・住居に関する情報を手に入れたい。 	<p>9. 災害時・緊急時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時を含め、他言語対応が不十分だ。 ・災害時に母国の人などに連絡が取れない。
<p>4. 病院・医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院が空いている時間に通えない。 ・専門用語がわからない。 ・健康保険の適用範囲がわからない。 	<p>10. 生活費など金銭的な問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シングルマザーで、収入が少ない。 ・家賃や学費の負担が大きい。 ・働いても豊かにならない。
<p>5. 年金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度上、年金を受け取ることができるのか不安だ。 	<p>11. 税金(住民税、国民健康保険など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の税金は高く、種類が多い。 ・納税に関する書類が日本語のため、わからない。 ・皆保険制度に納得ができない。
<p>6. 出産・育児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産前後世話をしてくれる人がいない。 ・外国人の子供にやさしい保育園がない。 	<p>12. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治安がよくない。

(5) 近くに住む日本人との付き合い



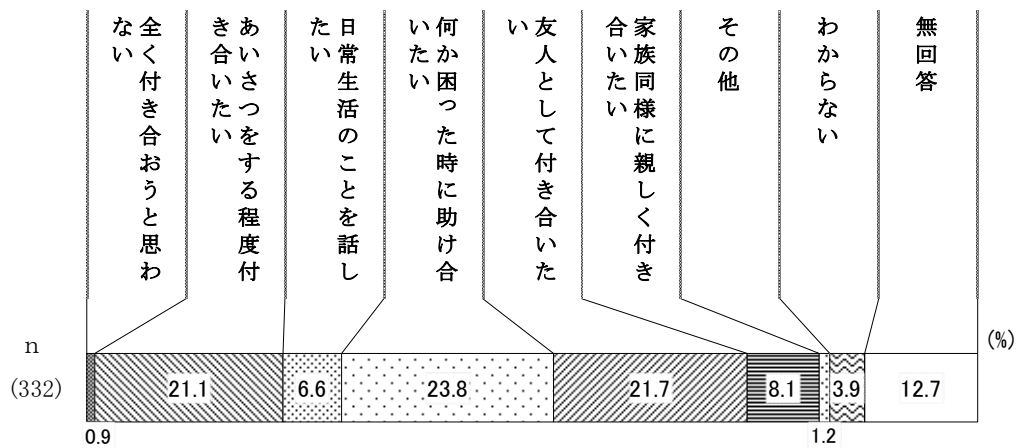
近くに住む日本人との付き合いでは、「あいさつをする程度」が55.4%で最も多かった。また、「あいさつをする程度」と、「日常生活のことを話している」・「何か困った時に助け合っている」（ともに6.9%）、「友人としてつき合っている」（9.0%）、「家族と同じように親しくつき合っている」（5.7%）を合わせた『何らかの付き合いがある』は83.9%となっている。

(6) 日本人と付き合いがない理由



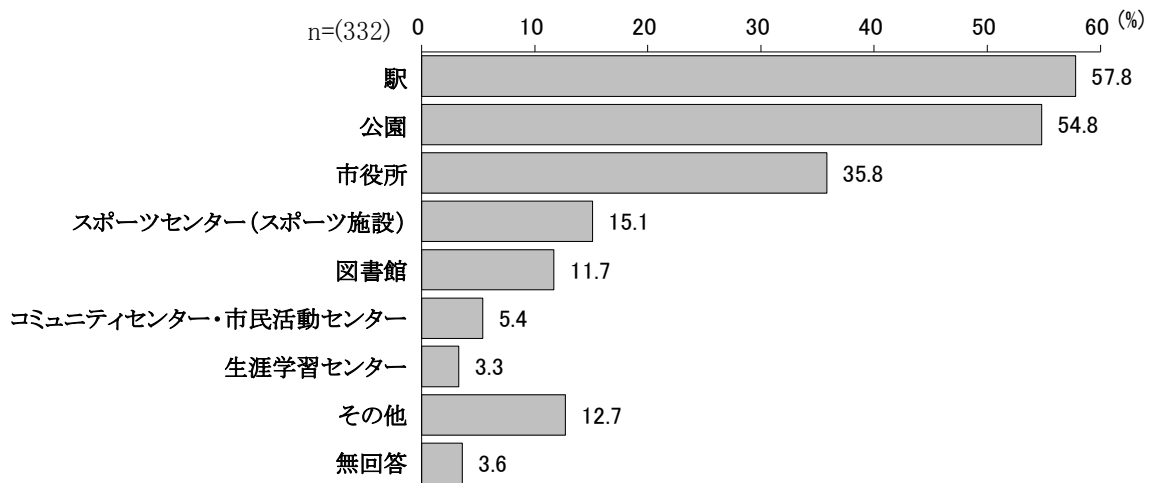
日本人と付き合いがない理由では、「話しかけるきっかけがないから」が62.1%で最も多く、以下、「時間帯が合わないから（生活時間が合わないから）」（20.7%）、「日本語を話せないから」（17.2%）、「日本人と付き合うことが苦手だから」（13.8%）となっている。

(7) 今後の近くの日本人との付き合い方



今後の近くの日本人との付き合い方では、「何か困った時に助け合いたい」が23.8%で最も多く、以下、「友人として付き合いたい」(21.7%)、「あいさつをする程度付き合いたい」(21.1%)、「日常生活のことを話したい」(6.6%)となっている。

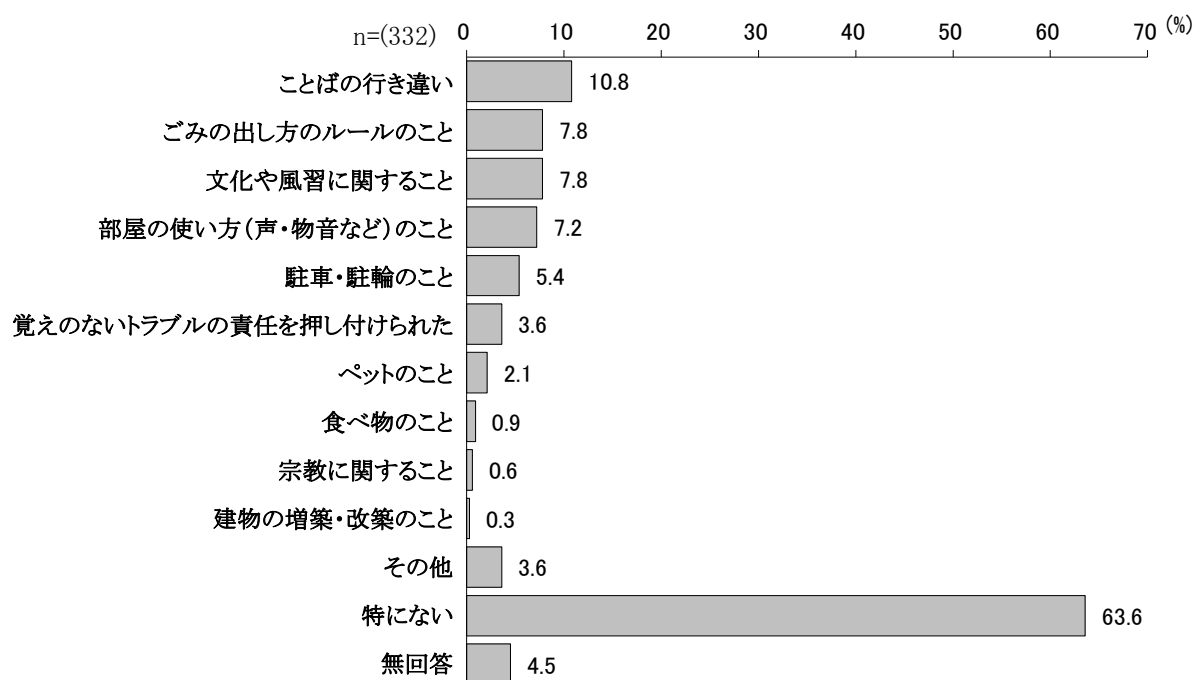
(8) 市にある建物で、いつもよく行く場所



市にある建物で、いつもよく行く場所では、「駅」が57.8%で最も多く、以下、「公園」(54.8%)、「市役所」(35.8%)、「スポーツセンター(スポーツ施設)」(15.1%)となっている。

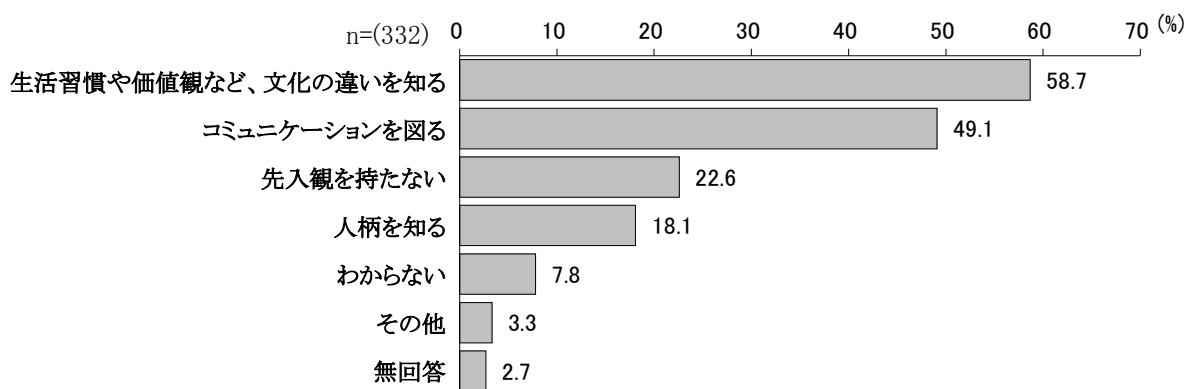
3 日常生活でのトラブル

(1) 近くに住む日本人とのトラブルについて



近くに住む日本人とのトラブルについては、「特にない」が63.6%で最も多く、以下、具体的な選択肢の中では、「ことばの行き違い」(10.8%)、「ごみの出し方のルールのこと」、「文化や風習に関すること」(ともに7.8%)となっている。

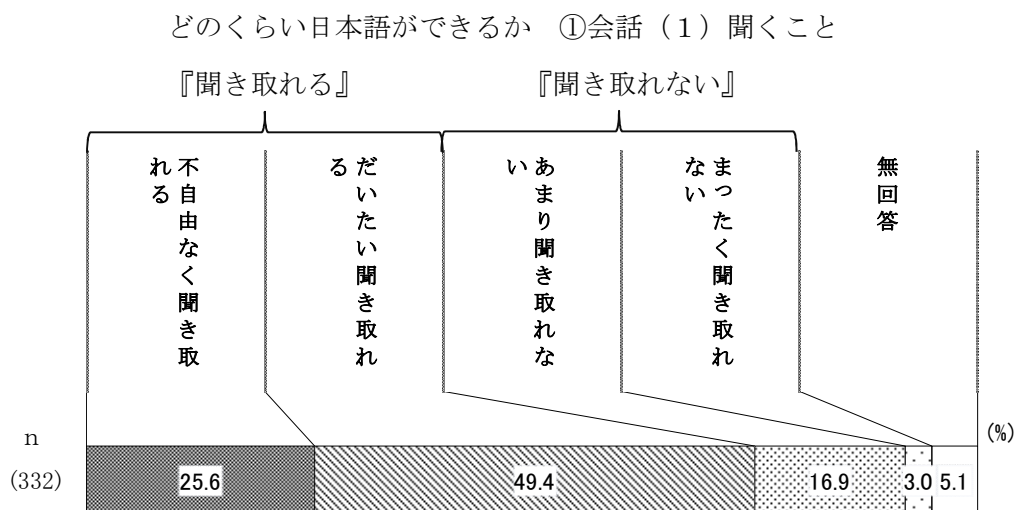
(2) 同じ地域で日本人と生活するために大切なこと



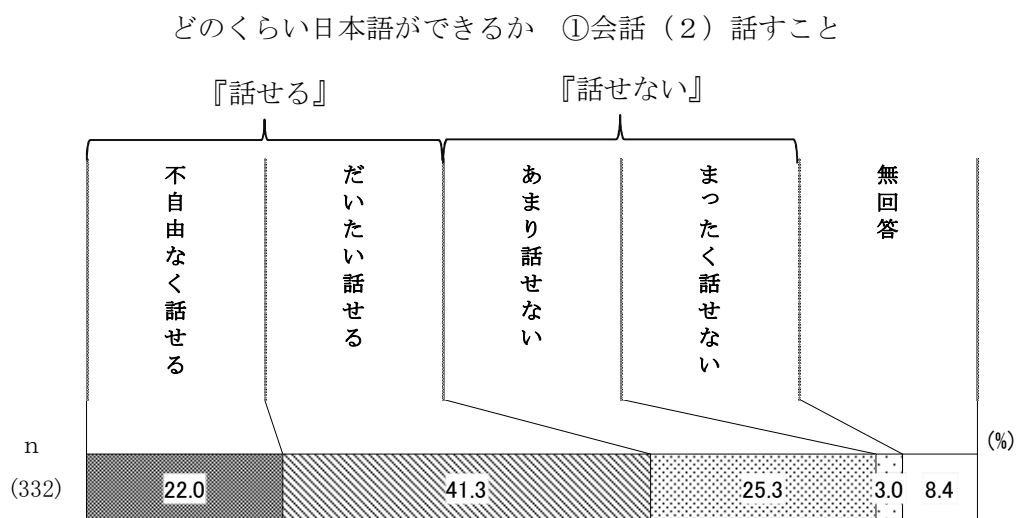
同じ地域で日本人と生活するために大切なことでは、「生活習慣や価値観など、文化の違いを知る」が58.7%で最も多く、以下、「コミュニケーションを図る」(49.1%)、「先入観を持たない」(22.6%)、「人柄を知る」(18.1%)となっている。

4 ことば

(1) 日本語について

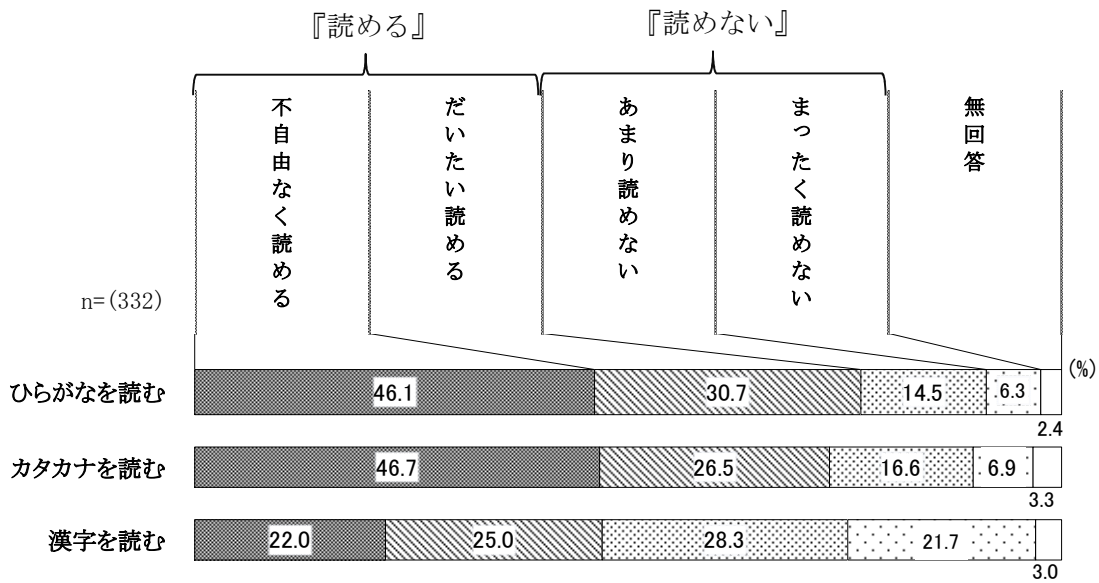


「不自由なく聞き取れる」と「だいたい聞き取れる」を合わせた『聞き取れる』は全体で75.0%となっている。一方で「あまり聞き取れない」と「まったく聞き取れない」を合わせた『聞き取れない』は全体で19.9%となっている。



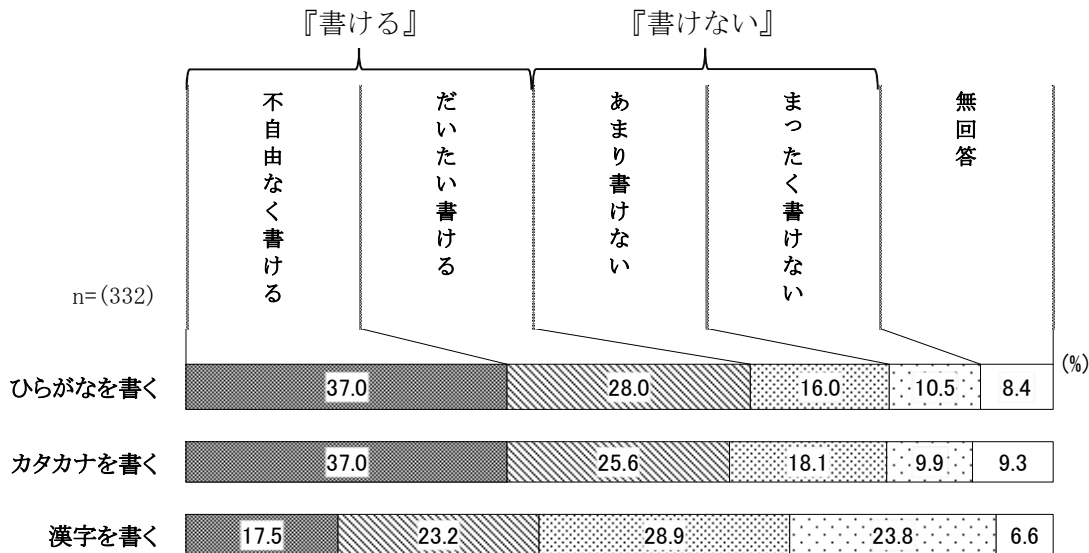
「不自由なく話せる」と「だいたい話せる」を合わせた『話せる』は全体で63.3%となっている。一方で「あまり話せない」と「まったく話せない」を合わせた『話せない』は全体で28.3%となっている。

どのくらい日本語ができるか ②読み書き (1) 読むこと



ひらがなについては「不自由なく読める」と「だいたい読める」を合わせた『読める』が全体で76.8%となっている。また、カタカナについては『読める』が73.2%となっている。一方で、漢字については『読める』が全体で47.0%となっており、他二つに比べ、割合が低くなっている。

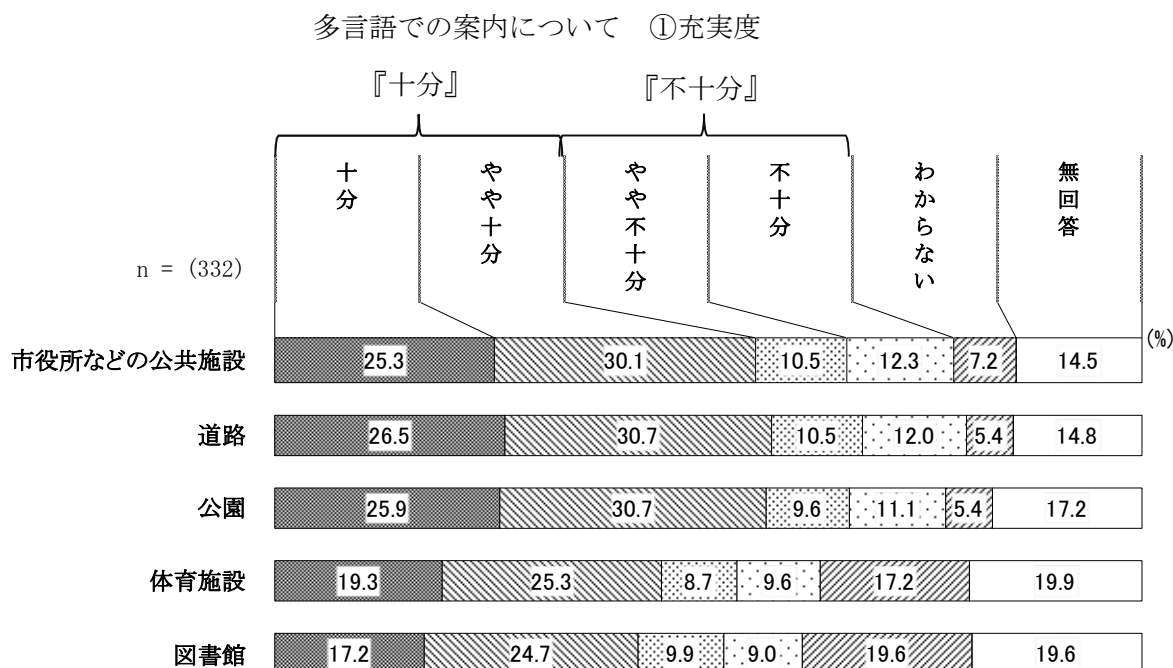
どのくらい日本語ができるか ②読み書き (2) 書くこと



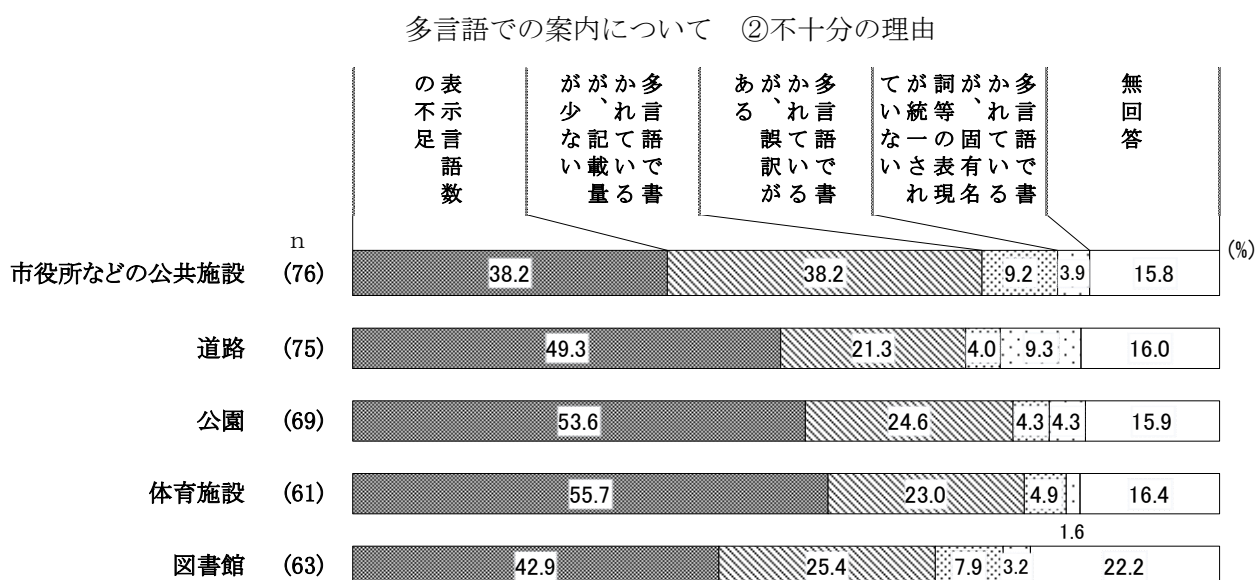
ひらがなについては「不自由なく書ける」と「だいたい書ける」を合わせた『書ける』が全体で65.0%となっている。また、カタカナについては『書ける』が62.6%となっている。一方で、漢字については『書ける』が全体で40.7%となっており、他二つに比べ、割合が低くなっている。

5 多言語化の対応について

(1) 多言語での案内について



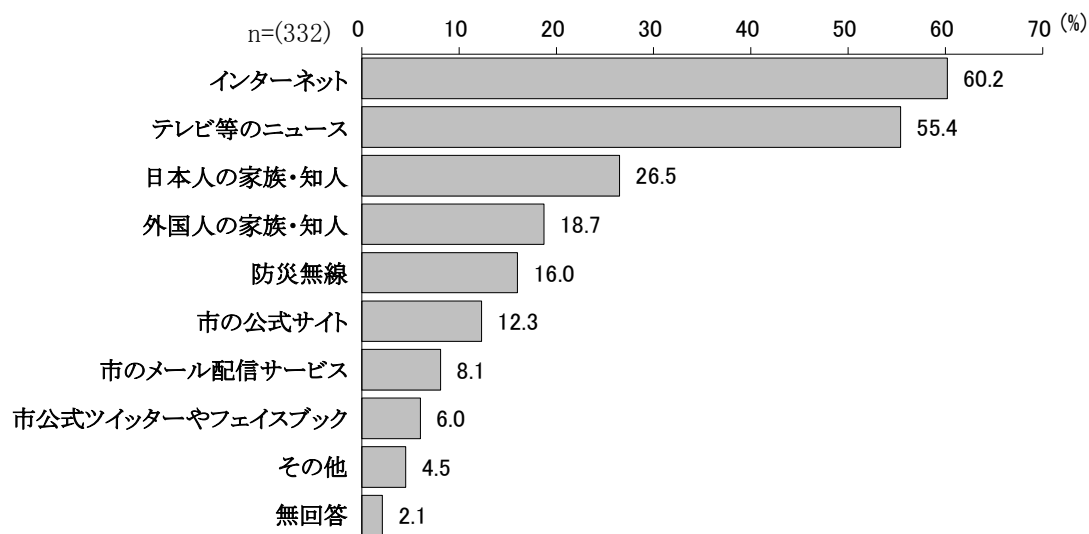
多言語での案内について①充実度では、「十分」と「やや十分」を合わせた『十分』については、「道路」(57.2%)、「公園」(56.6%)、「市役所などの公共施設」(55.4%)の順に高くなっている。一方、「やや不十分」と「不十分」を合わせた『不十分』については、「市役所などの公共施設」(22.8%)、「道路」(22.5%)、「公園」(20.7%)の順に高くなっている。



多言語での案内について②不十分の理由では、全ての施設において「表示言語数の不足」と回答した人の割合が高く、特に「体育施設」(55.7%)、「公園」(53.6%)、「道路」(49.3%)の順に高くなっている。また、「他言語で書かれているが、記載量が少ない」については「市役所などの公共施設」が他の施設に比べて高くなっている。

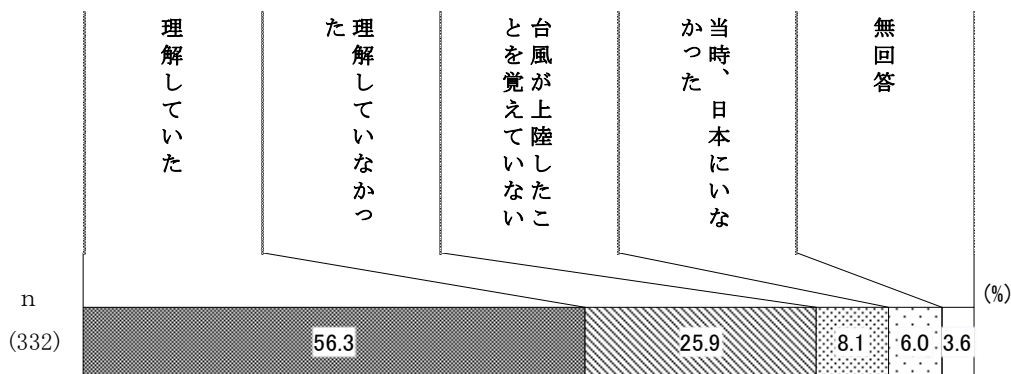
6 新型コロナウイルス感染症や災害時・緊急時の対応

(1) 新型コロナウイルス感染症や災害の情報の収集方法



新型コロナウイルス感染症や災害の情報の収集方法では、「インターネット」が60.2%で最も多く、以下、「テレビ等のニュース」(55.4%)、「日本人の家族・知人」(26.5%)、「外国人の家族・知人」(18.7%)となっている。

(2) 昨年(2019年)の台風(台風第19号)の避難指示の認知度



昨年の台風の避難指示の認知度では、「理解していた」が56.3%で最も多く、以下、「理解していなかった」(25.9%)、「台風が上陸したことを覚えていない」(8.1%)、「当時、日本にいなかった」(6.0%)となっている。

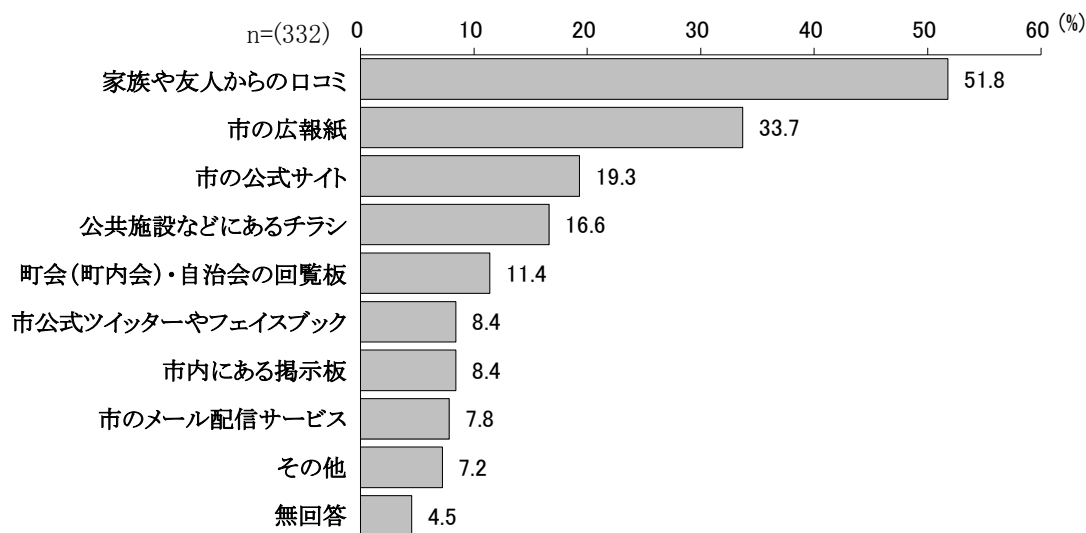
(3) 新型コロナウイルス感染症や災害の対策で困ったこと

新型コロナウイルス感染症や台風、地震などの災害対策で困ったことを自由に記述していただいたところ、134票の様々な意見が寄せられた。1票に複数の意見が記入されている場合があるため、意見数の合計は141件となっている。下記表は、それらの意見を分野ごとに分類した件数を示したものである。

分類	件数
外国語対応について	33
避難・物資の普及等について	23
仕事について	15
情報提供について	10
外出自粛について	4
新型コロナウイルス感染症の検査・ワクチンについて	4
出国・入国について	2
その他	50
合計	141

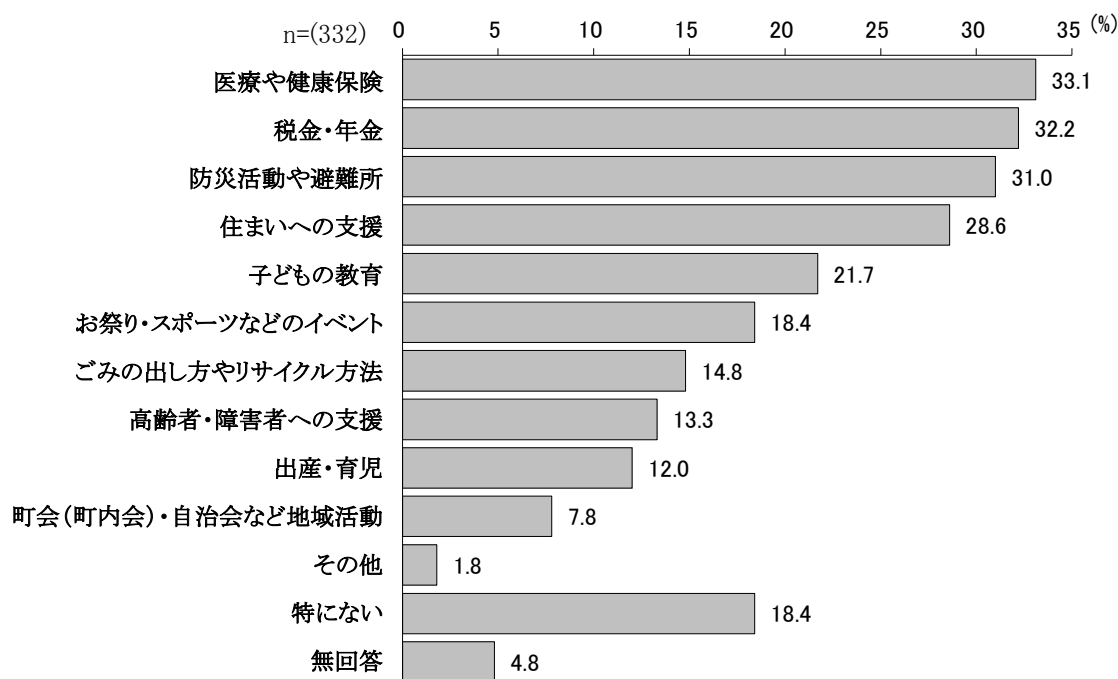
7 必要な情報・サービスについて

(1) 市や地域のお知らせなどの情報入手媒体



市や地域のお知らせなどの情報入手媒体では、「家族や友人からの口コミ」が51.8%で最も多く、以下、「市の広報紙」(33.7%)、「市の公式サイト」(19.3%)、「公共施設などにあるチラシ」(16.6%)となっている。

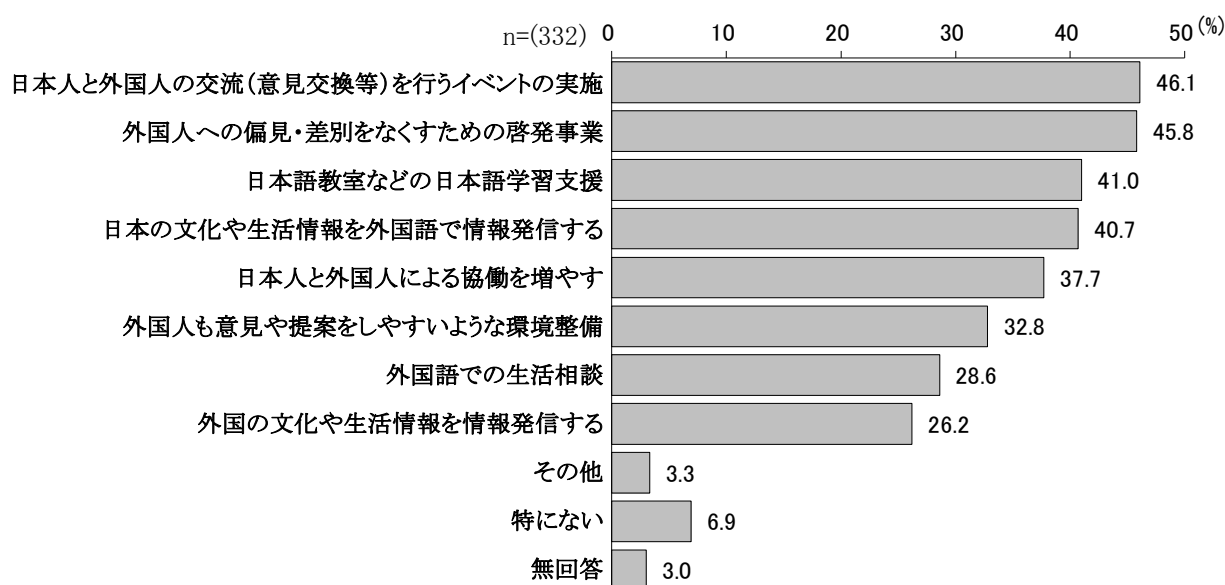
(2) 生活する上で知りたい情報



生活する上で知りたい情報では、「医療や健康保険」が33.1%で最も多く、以下、「税金・年金」(32.2%)、「防災活動や避難所」(31.0%)、「住まいへの支援」(28.6%)となっている。

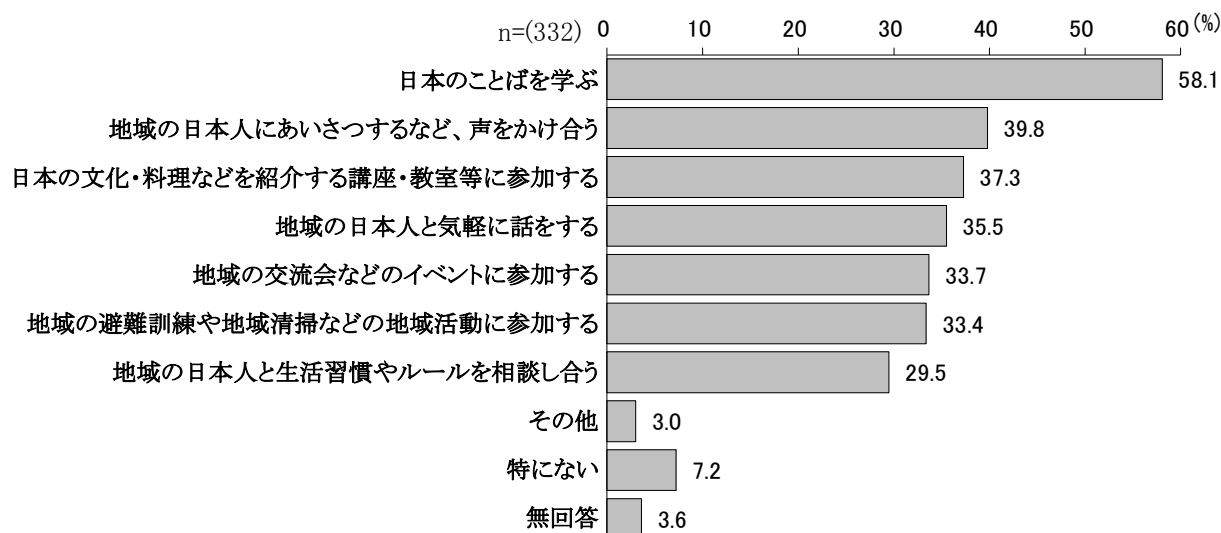
8 多文化共生のまちづくり

(1) 「多文化共生のまちづくり」の推進のために市でやるべきこと



「多文化共生のまちづくり」の推進のために市でやるべきことでは、「日本人と外国人の交流（意見交換等）を行うイベントの実施」が46.1%で最も多く、以下、「外国人への偏見・差別をなくすための啓発事業」(45.8%)、「日本語教室などの日本語学習支援」(41.0%)、「日本の文化や生活情報を外国語で情報発信する」(40.7%)となっている。

(2) 「多文化共生のまちづくり」の推進のために自分でできること



「多文化共生のまちづくり」の推進のために自分でできることでは、「日本のことばを学ぶ」が58.1%で最も多く、以下、「地域の日本人にあいさつするなど、声をかけ合う」(39.8%)、「日本の文化・料理などを紹介する講座・教室等に参加する」(37.3%)、「地域の日本人と気軽に話をする」(35.5%)となっている。

(3) より住みやすいまちにするためにできること

日本人と外国人とが共に認め合い、協力し合いながら、より住みやすいまちにするためのご意見を自由に記述していただいたところ、159票の様々な意見が寄せられた。1票に複数の意見が記入されている場合があるため、意見数の合計は188件となっている。下記表は、それらの意見を分野ごとに分類した件数を示したものである。

分類	件数
偏見・差別を無くし、相互に尊重することについて	40
多文化交流イベントの開催について	36
語学学習・学校について	23
多言語への対応・サポートの充実について	23
外国人が日本を理解することについて	18
日本人が諸外国の文化等を理解することについて	10
経済的支援について	2
その他	36
合計	188

福生市・羽村市多文化共生実態調査 報告書(概要版)

令和3年1月

発行：ふっさ・はむら多文化共生事業協議会（福生市・羽村市）

福生市 〒197-8501 東京都福生市本町5番地 福生市企画財政部企画調整課企画調整担当 電話：042-551-1528（直通） FAX：042-553-4451	羽村市 〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘五丁目2番地1 羽村市市民生活部地域振興課市民活動センター係 電話：042-555-1111（内線631・632） FAX：042-554-2921
---	--

